

わたしたちの人權

116

だれもが人間として生きていくうえで侵すことのできな
当然の権利これが「人權」です

外国人の人權について

▼国内の現状

日本は国際社会の一員として、国際人權規約や人種差別撤廃条約などの人権に関する多くの条約を批准しています。世界各国と連携・協力のもと、全ての人權が尊重され、あらゆる差別を解消することを目指して、各種取り組みを積極的に推進しているところからです。

国内各地には、多くの外国人やその家族などが生活しています。その中には、近代以降の日本の植民地政策のなかで生み出され、さまざまな事情のため日本に定住するようになった在日韓国・朝鮮人をはじめとするアジア諸国の人々、国内で労働に携わる外国籍の人々、中国帰国残留孤児なども含まれます。

現在、日常生活や労働現場において、外国人に係わる制度的・社会的

への十分な理解がなされていないこともなり、外国人に対する偏見や差別意識が存在し、人權侵害につながる事象も発生しています。

▼熊本県内の現状

熊本県内の外国人登録者は、年々増加傾向にあります。民間団体などの取り組みもあり、さまざまな国との国際交流が促進されています。しかし、その一方で、異なる民族・

国・地域・文化に関する理解不足による、外国人に対する偏見、差別が根強く残っています。医療や労働の面で不当な扱いを受けたり、賃貸住宅を借りようとしても貸してもらえないなどの問題が起こっています。外国人の児童生徒が、本名でなく通称名を使わざるを得ないこともあります。

▼問題解決の為に

これらの問題の解決を図るためには、外国人の人權に係わる問題について理解を深めていくことが大切です。また、学校教育などの場で、子どもたちが外国人の置かれている状況や歴史的背景、それぞれの国の文化や習慣について関心を深め、互いの違いを認め尊重しあう事を学んでいくことも必要です。

▼コラム（ボシタ呼称廃止）

熊本県を代表する秋祭りに、「藤崎八幡宮秋季例大祭」があります。勇壮な馬追いが、毎年行われ賑わっています。

この祭りはもともと「放生会」という、捕えていた生き物を解き放つ儀式から始まったものだといわれています。今では市民に親しまれる祭りとしてすっかり定着した感じがあります。

ところで、この祭りを「ボシタ祭り」と呼んだり、「ボシタ、ボシタ」と囃したりしていたことがありました。「加藤清正公が朝鮮を滅ぼしたことに

由来する」などという誤った歴史認識のもとに使われ、在日の朝鮮や韓国の人々に耐え難い思いをさせたことは否定できません。清正が朝鮮半島で激しい抵抗にあい、撤退を余儀なくされた事実からも、誤りは明らかです。これまでの啓発活動で、「ボシタ」の呼称を使う人はほとんどいなくなっています。

また、清正が朝鮮半島から連れてきた人々が被差別部落の人々の祖先だという間違った認識があります。近隣諸国の人々を「日本より劣っている」とする、民族的偏見と結びついた差別も生み出しました。「藤崎八幡宮秋季例大祭」がさらに、人權・国際化の時代にふさわしい21世紀の祭りとなるために、一人ひとりが豊かな人權感覚を身につけたいものです。



書道

臣關珠稱夜光菓珍李奈
名程珠稱夜光菓珍李奈

和光教室書道部の八田豊久さん（入佐）作

季節のうた

▼清和短歌会

限界の村の家屋はしずまりて
あの人何処この人もまた
堪えましたお彼岸過ぎて九十歳
沈む夕陽を静かに見入る
田の畦を揺るは揺るはの猪に
人の力の虚しさを知る

▼馬見原酔山会

山乗や落ちたばかりと云ひたげに
対岸の人爽やかに走り行く
露しとど裸足に歩く芝の上

▼やまなみの会「山脈」

滝音のとどろく峡の夜明けかな
草茂る中に埋れし暮しかな
小雨ふる残暑うする、昨日今日
テレビ見てナスの漬け物してみれば
思ったよりもおいしくなくて
出たこない何も浮かばずにらめつこ
白い原稿恨めしくなる
結納を済ませ安堵し病む夫は
孫の花嫁姿が見えると

▼通潤句会

健診を終はりて仰ぐ秋の空
さりげなく白磁の壺に吾亦紅
今朝の秋しかと背すじを立て直す

平川 竜
原田由紀子
渡辺 辰男
大西久美子
畑野フミヨ
高田ゆかり
今村 芳子
草樹 萌
赤澤富美子
小野 紀子
本田健二郎
山下 弘子
菅 清次郎
菊池 幸子
西田えい子

11月の当番医

11月 2日	高田整形外科 (電話 72-1007)
11月 9日	坂本クリニック (電話 72-0210)
11月 16日	伴 病院 (電話 72-0029)
11月 23日	野田 医院 (電話 72-0307)
11月 30日	矢部 広域病院 (電話 72-1121)

山都町の人口

(平成26年9月30日現在)

男	8,031人 (-14)
女	8,631人 (-4)
計	16,662人 (-20)
世帯	6,707戸 (-3)

※ () は前月比
※ 最高齢は105歳 [女性2人]
※ 平成26年9月の出生者数
3人 (今年の出生者数 51人)
※ 平成26年9月の死亡者数
23人 (今年の死亡者数 243人)

山都町観光案内所

ギャラリー喫茶 ルポン

☎72-1054



押花絵額 40点ほど。
小物や押花ハガキの体験会有り。

【体験会日程】
11/9 (日)、15 (土)、23 (日)
いずれも AM10時半～PM4時まで
参加費：¥500 (体験材料込)

出展者：るい工房 木原

～ 10月ギャラリーのご案内 ～

押花絵額 作品展

平成26年11月1日(土)
～ 11月29日(土)午前まで
水曜日定休日

編集後記



山都町の三大祭りが終り、秋がやってきました。ついこの間まで夏の暑さに倒れそうになっていましたが、最近では寒くて朝、目が覚めて布団から抜け出すまでの時間が掛ること。秋は暑くもなく、また寒くもない一番快適な季節なので、このまま秋がずっと続いてほしいです。周りを見渡すと木々も色つき始め、秋を目で楽しむことが出来ます。山の都の町を最も堪能できる季節なのかもしれませんね。②